

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和6年度】

2025年 3月 27日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 [Redacted]
所在地 [Redacted]

評価機関名 株式会社プレパレーション

認証評価機関番号 [Redacted] 機構 20 - 253
電話番号 [Redacted]
代表者氏名 [Redacted]

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	[Redacted]	経営	[Redacted]
	②	[Redacted]	福祉	[Redacted]
	③	[Redacted]	福祉	[Redacted]
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ		指定番号を入力してください	
評価対象事業所名称	放課GO→クラブこうなん			
事業所連絡先	〒	108-0075		
	所在地	東京都港区港南4-3-28 港南小学校敷地内		
	TEL	03-6718-4230		
事業所代表者氏名	大輪玲奈			
契約日	2024年 7月 22日			
利用者調査票配付日(実施日)	2024年 10月 25日			
利用者調査結果報告日	2024年 11月 15日			
自己評価の調査票配付日	2024年 10月 25日			
自己評価結果報告日	2024年 11月 15日			
訪問調査日	2024年 12月 19日			
評価合議日	2025年 3月 27日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	施設を現在利用している全世帯の利用者及び保護者を対象とした利用者調査をおこないました。施設から利用者調査案内を配布し、紙面にて回答して回収BOX及び返信用封筒にて本機関へ郵送してもらう形式にしました。職員へのアンケートも紙面にておこない、鍵付きBOXへ提出してもらったのち、本評価機関に郵送にて回収しました。訪問調査当日は、施設内の見学をしたあと、経営層に質問しながら、書類の閲覧をして状況把握に努めました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>(1)すべては子どもたちの笑顔のために (2)なりたい自分になる力を育む (3)想い・考えを伝えあい「対話する力」を育みます (4)相手に寄り添い相手を知る「想像する力」を養います (5)どんな違いも受け止め「認める力」を支援します</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>子どもの個性を認め、伸ばすことのできる人材を求めています。 運営会社の育成方針である「対話する力」「想像する力」「認める力」「自律する力」が養えるよう、職員自体がその力を持って育成に取り組むことで子どもたちにも同様の気持ちが身に着くものと考えています。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>子ども達をただ見守ったり遊ぶだけではなく、放課GO→クラブを退会した後を見据えた関わりをしてほしいと考えています。 上司に言われたことだけを行うのではなく、自ら学び知識と経験をもとにした関わりができるようになってほしいと考えています。</p>

調査対象

対象施設の登録児童数を調査対象とし、アンケートにて調査をおこなった。12世帯より回答を得た。回答は対象児童もしくは保護者が利用者の様子を推察し、回答を依頼した。

調査方法

アンケート方式
紙面のアンケートを施設より配布、施設内回収BOX及び返信用封筒にて本機関へ返送してもらう方法で実施。

利用者総数

38

共通評価項目による調査対象者数
共通評価項目による調査の有効回答者数
利用者総数に対する回答者割合(%)

アンケート	聞き取り	計
38	0	38
12	0	12
31.6	0.0	31.6

利用者調査全体のコメント

総合評価は、「大変満足」が58.3%、「満足」は16.7%、「どちらともいえない」が16.7%、「大変不満」が8.3%という結果となり、「大変満足・満足」を合わせて75.0%という結果となりました。自由記述では「全般的には満足で、子どもも楽しみに通わせてもらっています。」「いつも子どもの面倒を見て下さり感謝しております。」「先生方がフレンドリーなことは良いと思います。」というコメントのほか、親が参加できるイベントを作ってほしい、子ども同士のトラブルに介入して解決してほしい、ドッチミーをもっと沢山やれるようにしてほしい、乱暴な言葉遣いを注意してほしい、という意見が寄せられていました。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答・非該当
コメント				
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味の持てるものとなっているか	9	2	1	0
この項目では「はい」の回答が75.0%、「どちらともいえない」は16.6%、「いいえ」が8.4%、「無回答・非該当」は0%という結果となりました。自由記述では「よく工作をして、嬉しそうに作品を持ち帰って来ます。」というコメントのほか、乱暴な子がいる、という意見が寄せられていました。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	9	2	0	1
この項目では「はい」の回答が75.0%、「どちらともいえない」は16.6%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は8.4%という結果となりました。自由記述では、どのような感じで話をしたり聞いたりしてくれているかはっきり分からない、という意見が寄せられていました。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	10	1	0	1
この項目では「はい」の回答が83.4%、「どちらともいえない」は8.3%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は8.3%という結果となり、高い評価を得ています。自由記述では、たまに、食べられるものがあまりなかったと言っている、という意見が寄せられていました。				

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	3	4	1	4
この項目では「はい」の回答が25.1%、「どちらともいえない」は33.3%、「いいえ」が8.3%、「無回答・非該当」は33.3%という結果となりました。自由記述では「多分、尊重してくれていると思います。」というコメントがありました。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	5	5	0	2
この項目では「はい」の回答が41.7%、「どちらともいえない」は41.7%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は16.6%という結果となりました。自由記述では「あまり注意を受けることはありません。」というコメントのほか、どこまで伝わっているのか問題がありそう、という意見が寄せられていました。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	3	5	2	2
この項目では「はい」の回答が25.1%、「どちらともいえない」は41.7%、「いいえ」が16.6%、「無回答・非該当」は16.6%という結果となりました。自由記述では「いつも綺麗だと思います。」というコメントのほか、おもちゃをひっくり返す子がいるため、散らかっている、という意見が寄せられていました。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	11	0	0	1
この項目では「はい」の回答が91.7%、「どちらともいえない」、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は8.3%という結果となり、大変高い評価を得ています。自由記述では、もっとフレンドリーでも良いと思う職員もいる、という意見が寄せられていました。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	11	1	0	0
この項目では「はい」の回答が91.7%、「どちらともいえない」は8.3%、「いいえ」、「無回答・非該当」は0%という結果となり、大変高い評価を得ています。自由記述では「咳や頭痛を知らせてくれますし、対応した事の報告があります。」というコメントがありました。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	8	3	1	0
この項目では「はい」の回答が66.7%、「どちらともいえない」は25.0%、「いいえ」が8.3%、「無回答・非該当」は0%という結果となりました。自由記述では、職員がトラブルに介入して解決してほしい、という意見が寄せられていました。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	7	4	0	1
この項目では「はい」の回答が58.4%、「どちらともいえない」は33.3%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は8.3%という結果となりました。自由記述では「問題を起こしてしまった時、寄り添ってくれていました。」というコメントがありました。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	4	3	0	5
この項目では「はい」の回答が33.3%、「どちらともいえない」は25.0%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は41.7%という結果となりました。自由記述では、守られていると良いと思う、という意見が寄せられていました。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	5	3	1	3
この項目では「はい」の回答が41.7%、「どちらともいえない」は25.0%、「いいえ」が8.3%、「無回答・非該当」は25.0%という結果となりました。自由記述では、思いを伝えなくても、子どもを見てどうして欲しいか汲み取ってほしい、という意見が寄せられていました。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	4	2	0	6
この項目では「はい」の回答が33.3%、「どちらともいえない」は16.6%、「いいえ」が0%、「無回答・非該当」は50.1%という結果となりました。自由記述では「学校の担任等と共有してくれて、動いてくれました。」というコメントがありました。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	職員、利用者に向けて、育成理念などを共有して学童クラブの方針の理解を図っています 学童クラブでは、職員が理念やビジョンを深く理解できるように、採用面接や入社時の段階で育成理念や基本方針を詳しく説明しています。また、日常業務の中で理念を常に意識できるように、事務室内に育成理念を掲示し、職員の目にいつでも入る環境を整えています。さらに、保護者会では理念や方針について具体的に説明し、年度始めの機会を活用して、子どもたちにも直接わかりやすく伝えています。加えて、公式ホームページや運営協議会を活用し、地域全体にも学童クラブが大切にしている考え方を広く発信し、理解を深める取り組みを進めています。 経営層は事業の方向性を示し、運営方針の共有と組織全体の統一に取り組んでいます 事業所の理念やビジョンの実現に向けて、法人本部が実施する会議の議事録を施設長に公開し、経営状況や課題についての共有を図っています。また、毎月開催される施設長会では、代表取締役を含む経営陣が登壇し、具体的な改善点を説明するとともに、事業の方向性を示しています。さらに、理念や基本方針の確認を目的とした会議を定期的に開催し、職員が日々の業務において行動規範を意識できるように周知を続けています。経営層は責任ある立場として職員をリードし、組織全体で目指す方向性の統一を図っています。 決裁権限基準にもとづき運営の重要事項を決定し、周知する体制を整えています 学童クラブの運営における重要な案件の検討や決定は、あらかじめ定めた決裁権限基準にもとづいて進めています。職員への情報共有は、決定内容や経緯を職員ミーティングで説明し、参加できなかった職員にはミーティングノートを通じて確認できる仕組みを整えています。また、長期不在の職員には個別に連絡し、確実に周知しています。保護者への伝達は、おたよりの専用欄に記載するほか、必要に応じて出欠管理アプリのメッセージ機能を活用して情報を届けています。職員や保護者が重要事項を正確に理解できる体制を整えています。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-2の講評		
<p>職員や保護者、地域ニーズなど多面的に情報を収集し、対応策を検討し実行しています</p> <p>運営課題の抽出に向けて、こどもたちへのアンケートや保護者との日常会話、保護者会を通じて意見を収集しています。また、職員の意向については、ミーティングやアンケートを実施し、外部相談窓口も案内して情報を集めています。地域の福祉に関しては、地域会議や懇談会に施設長が出席し、地域の動向やニーズを把握しています。さらに、福祉事業全体の動向については、週1回の社内会議や月2回の施設長会で情報を収集しています。収集した情報は職員間で共有し、職員ミーティングを通じて事業所として対応すべき課題を検討し実行しています。</p> <p>中長期計画をもとに単年度計画を策定し、予算配分を管理する仕組みを整備しています</p> <p>法人全体で「長期経営ビジョン2025」を掲げ、子育て支援事業の質的成長・経営基盤の強化・新たな価値の創出を重点施策とし、中期計画では安全対策の強化・保育士増員による受入児童数の拡大などを明示しています。計画は法人内で毎年見直し、各部門に策定した中長期計画をもとに、学童クラブでは単年度計画を作成しており、具体的な施策を記載し、各施設で職員会議を通じて内容を検討しています。また、策定した計画にもとづき、市からの予算配分に応じて適正な予算編成を実施し、本部担当者と施設責任者が協力して管理を進めています。</p> <p>目標管理や振り返りを活用し、計画の実効性を高め、目標達成に向けて取り組んでいます</p> <p>中長期事業計画は法人内で毎年見直しをおこない、単年度事業計画は各施設で毎年2月頃、職員会議を通じて検討し作成しています。また、年度始めには目標管理シートを用いて、施設として目指す姿や個人の役割を設定し、四半期ごとに振り返りを実施することで進捗を把握し課題を修正しています。さらに、運営協議会では学校代表やPTA、利用者代表、地域関係者が参加し、事業計画の進捗や年度末の振り返り、次年度に向けた方針を共有する場を設けています。各段階で計画の実効性を高める取り組みを推進し、目標の達成に努めています。</p>		

カテゴリ-3		
3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ-1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当
サブカテゴリ-2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当
カテゴリ3の講評		
規範遵守と虐待防止の実現に向けて、研修や自主点検を通じた組織体制を構築しています 入社後の7日間研修では、放課後児童クラブ運営指針解説書や学童児童館マニュアルを用い、現場での実務を交えながら学びを進めています。また、動画研修を整備し、理解を促す仕組みを整えています。さらに、コンプライアンスに関するテストを毎月実施し、規範遵守を確認しています。虐待防止においては、月1回の自主点検を実施し、職員間で言動を振り返るほか、意見を出し合える環境を確認しています。また、虐待対応マニュアルを活用し、関係機関と連携して迅速に対応する体制を整えており、事例情報は本部で集約し、系列施設全体で共有しています。		
苦情や相談に対応する仕組みを整え、利用者の意見を反映して満足度向上に努めています 苦情解決については、学童児童館マニュアルをもとに運営本部の相談窓口を設置し、公式サイト内でお問い合わせフォームを公開しています。施設長が苦情や意見を把握し、フォーマットを用いて運営本部や区に報告し、職員共有ファイルで全職員に周知しています。また、連絡帳アプリや保護者会、迎え時の話などで利用者の意見を収集し、内容を研修や職員の質向上に活用しています。さらに、業務マニュアルに沿った対応手順があり、運営課題検討委員会で定期的に見直しをおこなっており、苦情や意見を反映し、利用者満足度向上に努めています。		
地域との連携や活動公開を通じて、こどもたちに多様な体験機会の提供を進めています 学童クラブの活動内容は、毎月のおたよりや保護者会、運営協議会において写真付きで報告し、運営の透明性を確保しています。また、地域施設との関係構築を目的に月1回の訪問を受け入れるとともに、職業紹介イベントなどを開催し、こどもたちに多様な体験機会を提供しています。さらに、港区施設長会や地域懇談会への参加を通じて、地域の防災体制に関する意見交換をおこない、避難訓練の改善提案を取り入れるなどの取り組みを推進しています。活動を通じて、学童クラブは地域社会の一員としての役割を果たすため、地域連携に取り組んでいます。		

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		
評点(00000)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		
評点(0000)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
<p>港区のマニュアルにもとづき、リスク対策を進め迅速に対応する体制を整備しています</p> <p>各リスクへの対策は、社内および港区のマニュアルにもとづき、施設内ミーティングで共有し、職員の危機意識を高めています。感染症対策では、保健衛生マニュアルや嘔吐処理マニュアルを整備し、高感染性病原体に対応可能な消毒剤を用いた清掃を実施しています。また、防災ガイドラインや危機管理マニュアルを活用し、台風や地震時の対応を明記し、説明会を通じて利用者へ周知しています。さらに、事業継続計画を策定し、有事の役割を明確化し、職員向けポータルサイトを用いて職員や関係機関に情報を周知し、迅速に対応できる体制を構築しています。</p> <p>複合災害訓練やアクシデント報告制度を通じて、事故防止と災害対応力を高めています</p> <p>リスクマネジメント体制としてアクシデント報告制度を導入しています。事故やヒヤリハット事案をレベル0～5に分類し、内容に応じた対応を実施しています。報告は本部で迅速に収集・分析して、再発防止策の策定や法人全体での共有を通じて、事故防止の体制を強化しています。また、月1回の避難訓練では、地震や火災だけでなく、津波や近隣施設での火災など複合的な状況を想定して実施しています。さらに、CPR訓練では急な心肺停止や窒息による心肺停止など、さまざまな事態を想定した訓練をおこない、対応力の向上に取り組んでいます。</p> <p>運営マニュアルにもとづいた個人情報の管理体制を整備し、適切な管理を推進しています</p> <p>個人情報の適切な管理に向けて、港区の情報セキュリティ研修を全職員が受講し、運営マニュアルにもとづき、収集、利用、保管、廃棄に関する規程を整備しています。入社時研修で個人情報の取扱いを周知し、職員の理解を図っています。児童台帳は鍵付きの棚で保管し、必要時のみアクセスできる仕組みを設けているほか、パソコンやデータにパスワードを設定し、事務室では職員が互いに行動を確認することで情報漏えいを防いでいます。さらに、利用目的の明示や開示請求対応に関する規程を設け、個人情報の適正管理を推進しています。</p>		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ-2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況
		3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に 取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に 活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリ-5の講評		
<p>採用活動やキャリアパスを活用して、働きがいの向上に取り組んでいます</p> <p>採用活動では、法人公式サイトを通じて理念や待遇・制度、キャリアパスの情報を発信し、適切な人材の確保に取り組んでいます。採用面接では育成理念を共有し、相互理解を深めた上で採用を判断しています。職員の配置は、等級制度と職務要件をもとにしたキャリアパスを活用し、施設の状況に応じた異動や配置を実施しています。また、面談やウェブアンケートを通じて職員の意識や就労状況を把握し、働きがいの向上や労働環境の整備に取り組んでいます。さらに、職員間の良好な関係構築にも注力し、職場環境の整備を推進しています。</p> <p>等級別研修や定期面談を通じ、職員のスキルアップを促進する支援体制を整備しています</p> <p>人材育成では、等級制度を基盤としたキャリアパスを明確化しており、等級別研修と評価制度を連動した実践と研修を通じてスキル向上を支援しています。また、定期的な目標面談を通じて、職員の得意分野を強化し、課題についてはチームでフォローする体制を整えています。さらに、勤務形態に関係なく、等級別研修や自由参加型研修を提供し、スキルアップの機会を確保しています。指導職員には目標管理面談や支援員会を活用して役割を明確化し、グループワークを通じて具体的な学びの機会を提供しており、職員の成長を組織的に支援しています。</p> <p>情報共有や意見交換の仕組みを活用し、組織力を活かして課題解決を進めています</p> <p>職員は研修後に学んだ内容をレポートに記載し、共有ボードに掲示して未参加の職員にも内容を共有する仕組みを整えています。また、ミーティングでは社内連絡や業務連絡に加え、施設全体の課題について意見を出し合うほか、施設長だけでなく、他の職員も発言を促す時間を設けることで、サービスの質の向上やチーム全体の組織力強化を図っています。さらに、四半期ごとに目標管理シートをもとに施設長との面談を実施し、チーム活動の効果を高めるためのサポートをおこない、目標達成や課題解決に向けた取り組みを推進しています。</p>		

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

学童クラブを「行くべき居場所」から「行きたい居場所」へと変えることを目標に掲げ、保護者の就労支援を担う施設でありながら、子どもたちが主体的に参加し楽しめる環境作りを進めています。昨年度は、さまざまなイベントを企画し、子どもたちが興味を持って楽しんで通える工夫を重ねてきました。また、玩具や本の追加にあたってはアンケートを実施し、子どもたち自身の意思を反映できる仕組みを取り入れることで、主体的な関わりを促しました。また、保護者との信頼関係構築にも力を入れ、送迎時の対話や電話連絡を通じて安心感を高め、不安の軽減に努めました。取り組みの結果、子どもたちが自主的に活動を見つけて楽しむ姿が増え、保護者からも高い評価を得ています。さらに、高学年の子どもたちに対しても、より一層楽しめる環境を提供するため、新たなアイデアやプログラムの導入を計画しています。今年度は、子どもたちがイベントやクラブ室の運営に積極的に関与し、自ら考え行動する機会を提供することで、主体的な成長をさらに促進する取り組みを進めていく予定です。改善活動を通じ、子どもたちが安心して心から楽しめる学童クラブの環境の実現を進めています。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

当学童クラブの取り組みは、単なる施設運営にとどまらず、地域社会全体の子育て環境に貢献する教育と成長の場としての価値を高めています。施設の育成理念である「なりたい自分になる力を育む」にもとづき、子どもの成長を多面的に支援し、育成方針の一部である「思い・考えを伝えあい『対話する力』を育みます」と「自ら考え行動し『自律する力』を応援します」を中心に具体的な実践を進めています。「対話する力」の育成では、イベント企画におけるアンケートや意見発表の機会を通じて、子どもたちが自分の思いを他者に伝え、形にするプロセスを体験できるよう工夫しています。「自律する力」の育成では、クラブ室やイベントの運営に子どもたちが主体的に関与する仕組みを取り入れ、自らの行動が成果を生むことを体験することで、自分に責任を持つ力を養っています。この取り組みは、子どもたちが「なりたい自分」への道を切り開くための基盤となり、子育て支援において貴重な機会を提供しています。今後も理念にもとづいた活動をさらに深化させて、子どもの成長を支える場としての役割を一層強化していくことが期待されます。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

学童クラブでは地域と連携した子育て支援を目指し、子どもたちが地域社会との繋がりを持つ環境作りに取り組んでいます。地域との連携は、核家族化が進む現代において、子どもたちが保護者や学校関係者以外の大人と触れ合う機会を増やし、地域で顔見知りを作ることで安全で安心できる環境を提供する重要な課題と位置づけています。2023年度は事業者変更の初年度という背景から、地域懇談会や運営会議の場で近隣施設に積極的に声をかけるなど、顔を知っていただく活動から取り組みを開始しました。取り組みの結果、近隣の児童館、保育園、図書館、幼稚園の四施設と連携を深め、協力関係を築くことができました。一方で、2023年度は自施設内の整備を優先したため、地域連携に限られた部分も見られましたが、今後は昨年度繋がりができなかった施設や地域の企業とも新たな連携を図り、育成理念である「なりたい自分になる力を育む」の実現に向けた取り組みをさらに推進します。引き続き、地域との関係を一層深めることで、子どもたちが主体的に地域社会で成長し活躍できる環境を整えることを目指していきます。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

当学童クラブは、地域連携を通じた子育て支援を重要な経営課題と位置づけ、理念を具体的な活動へと落とし込んでいます。「なりたい自分になる力を育む」という育成理念のもと、地域社会との関係性を強化し、子どもたちに多様な人々との交流や自己成長の機会を提供するだけでなく、地域全体の教育環境の向上にも貢献しています。特に施設長は、地域で生きる力を持つ子どもたちを育むことを目指し、地域施設や企業との連携を進めています。取り組みを通じて、子どもたちが地域で頼れる存在を見つけられるだけでなく、地域の大人たちにも学童や子どもたちの存在を知ってもらい、温かい支援の輪を広げる前向きな変化を促しています。さらに、核家族化が進む現代社会において、保護者や学校以外の大人との関わりを促進する活動は、子どもの社会性の発達に欠かせない要素であり、学童クラブが地域コミュニティの一員として重要な役割を担っていることを示しています。今後も、地域との連携を一層推進し、学童クラブが地域社会にとって不可欠な存在として、その価値をさらに広げていくことが期待されます。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>区や法人のホームページ、学童クラブ発行のおたよりを活用して、情報を発信しています</p> <p>学童クラブの情報は、港区のホームページや法人のホームページ、「放課後GO→クラブこうなん」のおたよりなどで情報を発信しています。また、近隣の幼稚園や区の窓口におたよりを設置するほか、学校説明会に参加し、学童クラブの説明をおこない、利用希望者に情報を提供しています。そのほか、港区が区内の保育園や幼稚園に向けて学童クラブの募集案内を配布し、そこでも学童クラブの情報を得ることが出来ます。学校の入学前健診の機会を利用して、保護者の方から来所した際は、学童クラブの情報を丁寧に伝えています。</p> <p>法人ホームページやおたよりなどは、子どもや保護者に伝わりやすい内容にしています</p> <p>法人のホームページでは、概要とアクセスを載せ、子どもが安心して過ごせる放課後の居場所であることを発信しています。港区のホームページでは、利用対象、条件、定員、申込・申請方法、利用時間などを載せるほか、外国語に変換できる機能や漢字にルビを振り、情報を提供しています。また、「放課後GO→クラブこうなん」のおたよりにふりがなを振り、子どもでも分かりやすい構成にしています。配慮が必要な子どもの保護者へは、港区発行の「小学生の居場所について」に利用条件を記載するなど、利用希望者のニーズに合わせた情報を提供しています。</p> <p>見学は随時、受け付けしており、個別に対応しています</p> <p>学童クラブの見学は、随時開催し、電話で受け付け、施設長または常勤職員が対応しています。見学の際は、見学者に学童クラブは学校の敷地内にあり、安全な環境とワンフロアのなかで、一般利用の子どもと学童クラブの子どもと一緒に過ごしていることを伝え、施設内を案内しています。また、育成時間外の午前中や夕方時間帯に見学を勧め、個別に対応をおこなっています。配慮が必要な子どもには、施設内を案内したうえで、学童クラブで支援できることを伝え、見学者から理解を得るように取り組んでいます。</p>		

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当	
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当	
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当	
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当	
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当	
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当	
サブカテゴリー2の講評			
<p>入会説明会では、一日の流れや利用内容を保護者に説明して同意を得ています</p> <p>入会説明会で、入会のしおりに沿って一日の流れや利用内容、写真の取扱いについて説明をしています。アレルギー対応と配慮が必要な子どもに関しては、食材取り扱いの確認書、生活状況調査書の提出をお願いし、個人面談で対応や配慮点を確認し、記録しています。子どもの写真については、写真掲載意向確認書で、保護者と同意書を交わし、同意が得られない場合は、一覧表にして職員間で共有を図っています。そのほか、利用負担金に関しては、「港区学童クラブ等入会案内小学生の居場所について」で記載し、理解を得ています。</p> <p>職員は子どもに関する情報を記録し、新しい生活に慣れるための支援に取り組んでいます</p> <p>子どもに関する情報は、児童票に記録して把握しています。また、支援に必要な子どもの情報は、保護者が記入する生活状況調査書をもとに確認し、把握に取り組んでいます。子どもに必要な支援の詳細は、保護者との個人面談で聞き取り、子どもの特性に合わせた支援に取り組んでいます。新1年生の入会後は、オリエンテーションを実施し、学童クラブの基本的なルールの説明をおこない安心感につなげています。慣れない集団生活で不安が見られる際は、職員が一緒になって遊びの輪のなかに入り、ほかの子どもと遊べるきっかけ作りの支援をしています。</p> <p>配慮が必要な子どもには、特性を把握し、安心して生活に慣れる配慮をしています</p> <p>アレルギー対応や発達面で配慮が必要な子どもに対しては、個人面談を実施し、適切な支援に努めています。また、特性の内容を事前に全職員で把握し、入会決定後には、加配職員の調整や子どもが安心して学童クラブの生活に慣れる配慮をしています。また、入会前の保育施設とは、必要に応じて子どもや家庭について情報共有を図り、育成支援の参考にしています。子どもが退会する際は、遊びに来てもいいことを伝え、他の学童クラブでも安心して通えるよう、他の学童クラブの職員と連携を図り情報共有に努めています。</p>			

サブカテゴリー3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の
標準項目実施状況

10/10

評価項目1

子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している

評点(0000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当

評価項目2

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当

評価項目3

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	○非該当

サブカテゴリー3の講評

学童クラブでは年間の育成支援目標を立て、支援内容の見直しと検討に取り組んでいます

学童クラブでは、年間計画の育成支援目標を職員間で話し合い立案しています。また、年間計画では、育成支援目標の実現に向かい月間目標を立て、職員間で共有を図り支援に取り組んでいます。職員は、毎日のミーティング内でこどもの様子について共有し、育成支援方法の見直しと検討に取り組んでいます。配慮が必要な子どもには、特性に合った支援ができていないかをミーティングで話し合い、学校の担任教諭や保護者とも連携を図り、特性に合った計画を立てています。そのほか、支援方法を変更する際は、保護者の同意を得るようにしています。

こどもに関する情報や個別の支援方法について話し合いをおこない、記録しています

学童クラブでは、こどもの様子や援助内容を記録し、職員がいつでも振り返りをできるようにしています。また、配慮が必要なこどもの記録に関しては、生活状況書をもとに保護者から個人面談で聞き取りをおこない、こどもの特性に合わせた支援を話し合っています。支援内容を記録し、こどもに関する必要な情報を職員間で周知、共有しています。港区や法人の障がい児巡回で得られた情報は、ミーティングノート、児童票、特別支援児用日誌などに記載しています。

職員は、こどもに関する情報をミーティングで話し合い、周知と共有に取り組んでいます

学童クラブでは、年度末に特別ミーティングを実施し、職員間で共通理解を図り支援に取り組んでいます。また、職員は、毎日のミーティングでこどもに関する情報を共有しています。こどもや保護者に関する情報は、業務日誌をもとにミーティングで共有し、非常勤職員からは、日誌に記載した以外の情報をあげてもらい全職員で共有しています。そのほか、法人主催の事例検討ミーティングでは、非常勤職員も参加し、発達支援について実際にあった事例をもとに支援方法を学ぶ研修を設けています。

サブカテゴリ-5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している	○非該当	
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している	○非該当	
サブカテゴリ-5の講評			
<p>個人情報を外部に情報漏洩しないことを全職員に周知し、徹底しています</p> <p>学童クラブでは、こどもの写真の取り扱いについて、同意書を交わし入会時に保護者から同意を得ています。また、新たに外部との情報のやりとりが必要になった場合は、保護者の意向を確認し、プライバシー保護に努めています。個人情報は、外部に情報漏洩しないことを全職員に周知し、プライバシー保護の徹底をしています。そのほか、こどもがトイレトレーニングなどで、着替えが必要な場合は、同性介助をおこない、こどもの意思を尊重するとともに、羞恥心に配慮した対応をしています。</p> <p>職員は、援助するなかでこどもの気持ちを受け止め、尊重する関わりを大切にしています</p> <p>職員は、日常の援助のなかで、こどもの思いや気持ちを受け止め、尊重する関わりを大切に、職員間で共有しています。また、こどもにアドバイスをする場面では、職員の考えを伝え、こどもの意見も聞きながら、意思を尊重し、話しをしています。そのほか、こどもの家庭での生活習慣に配慮し、宗教上必要な場面においては適切な援助に取り組むなど、多様な価値観、文化、習慣の違いへの配慮に努めています。職員は、保護者やこどもの生活習慣を理解したうえで、適切な援助ができるように取り組んでいます</p> <p>こども同士のトラブルでは、職員間で共有しながら、再発防止の徹底を図っています</p> <p>学童クラブ内でこども同士のトラブルなどが続いてしまう場合は、対応する職員がこどもの様子を見守りながら、トラブルの予防に取り組んでいます。また、必要に応じて学校や保護者とも連携を図り、解決に向けた話し合いをおこない、職員間で共有しながら、再発防止の徹底をしています。さらに、職員はこどもの気持ちに寄り添って心のケアにも努めています。そのほか、当事者以外のこどもには、始まりの会などで、トラブルに関して、みんなで考える機会を設けるなど、再発防止に取り組んでいます。</p>			

サブカテゴリ-6			
6	事業所業務の標準化	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当	
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	○非該当	
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている	○非該当	
サブカテゴリ-6の講評			
<p>マニュアルは手順内容を明確にし、職員は、一定水準の業務の遂行に取り組んでいます</p> <p>学童クラブでは、学童クラブ・児童館業務マニュアル、学童クラブ運営マニュアルなどの手順内容を整備しています。業務に必要なマニュアルは、法人作成のマニュアルを基本とし、ひとつのファイルにまとめ事務所に保管し、職員はいつでも確認することができます。また、月1回マニュアル内から問題を出題し、安全テストを全職員が受けています。さらに、マニュアルの読み込みもおこない、職員の誰もが一定水準の業務が遂行できるように取り組んでいます。業務でわからないことが起きた際は、マニュアルの再確認に取り組んでいます。</p> <p>マニュアルの見直しをおこない、職員に周知して業務の標準化に取り組んでいます</p> <p>学童クラブでは、港区作成のマニュアルや法人作成のマニュアルを活用して、学童クラブの運営に取り組んでいます。また、改正や変更がある際は、その都度、マニュアルの見直しをおこない、職員に周知しています。さらに、食物アレルギー緊急対応マニュアルなどは、掲示をおこない、迅速な対応に取り組んでいます。年1回、法人のマニュアル改定チームが中心となり、法人全体の学童クラブについてのマニュアルの見直しをおこない、整備するとともに、誰もが同じ対応ができるよう学童クラブ業務の標準化に取り組んでいます。</p> <p>学童クラブでは、子どもや職員からの意見を取り入れ、サービスの改善を図っています</p> <p>学童クラブでは、提供するサービスの見直しにあたり、保護者や職員からの意見を取り入れています。保護者からは、連絡帳アプリやお迎え時の会話、保護者会などで意見の収集をおこない、帰宅時間の調整を柔軟に対応し、改善を図っています。職員からは、おやつ提供時の人数についての提案があがり、子どもにとって最適な環境でのおやつ提供に取り組んでいます。また、学童クラブではマニュアルに沿った基本的なサービスを提供しつつ、法人のエリア会議などでマニュアルの活用について相談体制を整え、提供するサービスの質の向上を目指しています。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

		サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	29/29
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している	評点(0000)	
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当
	●あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当
	●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
評価項目1の講評			
<p>学童クラブでは職員間で連携を図り、子ども一人ひとりの姿や状況の把握に努めています</p> <p>学童クラブでは、施設長が子ども全体の様子を見て、職員一人ひとりと連携を取り子どもの姿を把握するように心がけています。また、職員ミーティング内で前日にあった子どもの行動やトラブルについて情報共有を図り、子どもの全体的な姿を把握できるように取り組んでいます。支援を必要とする子どもには、保護者と面談を実施し、児童票や生活状況調査書の確認と連携を図りながら状況に応じた支援に取り組んでいます。さらに、新1年生の状況を把握するため、入会前の保育施設から引き継ぐ支援シートなどで情報を確認し、支援にあたっています。</p> <p>文化や宗教、特性の違いを認め合う関係性を築ける支援に取り組んでいます</p> <p>学童クラブでは、法人育成方針に「どんな違いも認め合う力を支援する」を掲げ、子どもが互いの違いを理解し認め合い、協力しながら、豊かな関係を築ける環境作りと支援に取り組んでいます。また、文化や宗教の違いを、ほかの子どもにも理解できるように、分かりやすく丁寧な説明をおこない、子どもの特性に合わせた言葉を使って意思疎通を図っています。職員は、子ども同士がコミュニケーションを図り、関係性を築けるために、子どもたちの様子に合わせた援助をおこない、気持ちの代弁やより良い行動を伝え、見守っていく姿勢で関わっています。</p> <p>子ども同士のトラブルは、思いを受け止め、気持ちを落ち着ける環境を整えています</p> <p>発達の過程で生じる子ども同士のトラブルに関しては、子どもの思いを受け止め、気持ちが落ち着くようにクールダウンできる場所の確保に取り組んでいます。また、新たなトラブルが発生しないように距離をとり、安心できるようにしています。さらに、子どもが困った時は気持ちを素直に伝えられる信頼関係を築いています。発達面で特に配慮が必要な子どもがともに生活できるように、学校の支援級の教諭や発達支援の専門家と連携を図り、助言に沿った支援に取り組んでいます。</p>			
2	評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している	評点(000)	
	評価	標準項目	
	●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当
	●あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当
	●あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当
評価項目2の講評			
<p>子どもの自発性、自主性を育み、豊かな経験を積み重ねられる工夫に取り組んでいます</p> <p>学童クラブでは、さまざまな発達に合わせ、誰もが楽しく過ごせる工夫に取り組み、子どもの自発性、主体性を育てています。また、ワンフロアのため、活動場所の確保は、柱や棚を利用して活動場所を分けるなどの工夫をしています。職員間で子どもの遊びに適している玩具や本など意見を出し合い、子ども一人ひとりの意見も取り入れています。職員は、子どもの発達段階に合わせた遊びの環境を整え、豊かな経験を積み重ねられる工夫に取り組んでいます。</p> <p>子どもが主体性を持ち活動に関われるように見守りの体制を整えています</p> <p>職員は、集団生活を通して子どもが主体性を持ち、活動に関わることができるように見守りの体制を整え、必要に応じた援助をしています。また、自由遊びの時間のなかで、子どもたちが自ら遊びを考える時間を設け、主体的な行動ができるように関わっています。集団生活が苦手な子どもへは、子ども一人ひとりの個性や特性を把握し、子どもの気持ちを尊重しながら、集団のなかに入れる支援をしています。支援が必要な子どもへは、遊びやおやつなどのタイミングなど、子どもの意思を尊重しながら関わることを心がけています。</p> <p>子どもたちが基本的な生活習慣を身に付け、自立した生活を過ごせる指導をしています</p> <p>学童クラブの職員は、生活や遊びを通して子どもたちが基本的な生活習慣を身に付けられるように、生活の流れを決めています。学童クラブへ入室したら、手洗いを済ませてから次の活動をする声かけをしています。手洗い場には、菌がついた写真を掲示し、衛生面と健康面の両面から意識できる工夫をしています。身の回りのことや、遊び終わった後の玩具の片付けなどは、切り替えのタイミングで声をかけ、自立した生活が過ごせる指導をしています。おやつを食べるときは、ほかの部屋と分けて食べ、生活のなかで切り替えができる工夫をしています。</p>			

3 評価項目3

日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目3の講評

行事では、興味や関心が持てるように、さまざまな支援を実施しています

職員は、行事やイベントを通し、ともだちと協力し、相手を思いやることや自らの思いも伝えられる支援をしています。また、行事は興味や関心を持てるようにアンケートを取り、意見を参考にして子ども自ら進んで取り組める行事やイベントを開催しています。工作イベントを開催する際は、イメージを膨らませるため事前に試作作品を見せ、興味、関心を持てるように工夫しています。子どもが発案した布のフリスビーを使った「ドッジビー大会」は、子どもたちみんなが楽しく参加できるかを、職員とともに考え、実現に向けて話し合いを進めています。

行事では子どもたちからの意見を取り入れ、協力しながら楽しめる機会を提供しています

学童クラブでは、子どもたちからの意見を積極的に取り入れ、意見を反映した行事開催の実現に向け取り組んでいます。春に開催した「ぬり絵コンテスト」では、1年生からもう一度やりたいとの声があがり、2回目を実施しています。2年生は、「ドッジビー大会」を発案し、企画から運営まで携われるように職員が協力体制を整えています。月のイベントで実施した「バスボム作り」では、工作に興味がない子どもが積極的に参加し、ほかのともだちに作り方を教えるなど、協力しながら楽しむ機会を提供しています。

保護者とはこどもの取り組む姿や成長を共有し、遠足への参加・協力をお願いしています

学童クラブでは、行事に対して保護者の理解を得るため、「放課後GO→クラブこうなんだより」で、行事のスケジュールとこどもの活動の様子を写真で掲載し、行事の様子が伝わる発信に取り組んでいます。また、月の支援目標も合わせて記載し、保護者と共有を図っています。保護者がお迎えに来た時は、こどもの行事に取り組む姿や成長している様子を伝え、共有を図り行事に対して期待感が高まるようにしています。そのほか、保護者には近隣の清掃工場遠足への参加を呼びかけ、引率の協力のお願いや、親子で楽しむ機会となるよう取り組んでいます。

4 評価項目4

子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすように連携を取りながら援助している	○非該当

評価項目4の講評

子どもが学童クラブへ自ら進んで通い、楽しめるように遊びの環境を整えています

学童クラブでは、多くの種類の玩具や本を提供し、興味、関心が持てる環境を整え、子どもたちのやりたい意欲や気持ちに応えられるように、環境を工夫しています。帰りの会では、子どもから次回のイベントや活動内容を事前に知らせ、学童クラブへ通うことが楽しみとなるよう取り組んでいます。出欠席は、ICTシステムを活用し、連絡がなく欠席した場合は電話をかけ、確認をおこなっています。また、必要に応じた支援体制を整えていることを伝え、家庭での様子を確認し相互理解を図り、子ども自ら学童クラブへ通えるよう取り組んでいます。

生活のなかに区切りをつけ、見通しを持ち、主体的に活動できる環境を整えています

学童クラブでは、子どもたちに学習タイム、おやつ時間、帰りの会など生活のなかに区切りをつけ、生活に見通しを持って過ごせるように働きかけています。また、始まりの会を設け一日の流れや活動内容を伝え、自主的な遊びの活動となるように声をかけています。子どもたちも生活の流れを理解し、好きな遊びを楽しんでいます。学校の長期休業の夏休みは、課題解決型学習の「STEAM × Sプログラム」を取り入れ、テーマに沿った課題に向かって考えながら解決していく活動を実施し、いつもとは違う雰囲気を楽しめる環境の工夫に取り組んでいます。

子どもが安心して活動できる環境の工夫や、安全面への配慮をしています

学童クラブは、ワンフロアの施設となっており、限られたスペースを棚で分け、子どもたちが安心して活動できるよう環境の工夫に取り組んでいます。室内は、おやつスペースと身体を動かすスペースを、時間で分けるなど工夫し、安全に遊ぶためのルールを伝え、安全面に注意を払っています。また、放課後子供教室と一体型運営の学童クラブでは、「放課後GO→」利用の子どもたちと同じ部屋で、ともに生活をしながら過ごす環境を整え、プログラム活動も一緒に参加するなど、子どもたちの遊ぶ場所を区別することなく、ともに遊べるよう援助しています。

5 評価項目5

子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当

評価項目5の講評

学校とは、こどもの情報共有や安全面の連携に努め、安心して過ごせる配慮をしています

職員は、子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう配慮し、学校であったトラブルや、学童クラブ内で起きたトラブルに関しては、学校と連携を図り情報共有に取り組んでいます。学童クラブでは、施設長が窓口となり支援級の教諭や担任教諭と情報交換をおこない、適切な支援に取り組んでいます。そのほか、学童クラブへの移動は、学校敷地内で安全に移動することができ、緊急を要する際は、学校と電話で連絡を取り、津波発生時は、3階へ避難のため、避難先や避難方法について学校と連携を図り、安全管理に関する情報共有の徹底を図っています。

学校とは、支援方法の共有を図り、子どもが安心して過ごせる配慮に取り組んでいます

学童クラブでは、問題や課題を抱える子どもに対しては、学校とこどもの様子を共有しながら、こどもの気持ちに配慮した支援に取り組んでいます。また、学校とは、互いの支援の仕方を明確にし、共有しながら同じ対応をおこない、子どもが安心して過ごせる配慮に取り組んでいます。そのほか、学校で問題行動があった際は、子どもがクラブに来る前に学校から連絡が来る体制を整え、クラブで過ごす際は、気持ちを切り替えて落ち着いて過ごせるよう、適切な対応で関わり、こどもの安心感につなげています。

配慮が必要なこどもの支援では、保護者や関係機関との連携体制を整えています

障がいのあるこどもや発達面で特に配慮が必要なこどもの援助の際は、生活状況調査書をもとに面談をおこない、こどもの発達状況や適切な支援について保護者と話し合っています。また、子ども家庭支援センターとは、年に1回、連携を図り、情報共有に努めています。そのほか、支援についての相談先は、港区各関係部署のパンフレット等で情報を収集するほか、芝浦港南地区運営会議に出席し、関係機関について情報を得るよう取り組んでいます。関係機関と連携を図る際は、こどもの個人情報漏洩にならないよう配慮をしています。

6 評価項目6

子どもがおやつを楽しめるよう援助している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当

評価項目6の講評

おやつを提供する際は、メニューを工夫し、落ち着いて食べられる配慮をしています

学童クラブでは、柵で囲われた場所におやつスペースを設け、遊びとおやつの空間を分け、落ち着いて食べられる配慮をしています。また、夏はアイスや氷菓子など冷たいおやつを取り入れ、冬は温かい焼きなど、季節感を感じるメニュー提供の工夫をおこなっています。年2回、ランチクッキングや手作りおやつの機会を設け、夏は冷やしうどんとパフェを提供し、こどもたちの楽しみとなる工夫をしています。職業紹介イベントで招待したお菓子の企業が来た際は、企業が販売しているお菓子を食べるなど、いつもとは違うおやつを味わっています。

おやつは、こどもたち自身で、食べる量を調整しながら選べるように工夫しています

学童クラブでは、こどもたちが無理なくおやつを楽しめるように、来所時間や家庭での夕食の時間帯を考慮し、早く帰るこどもから順に食べられるよう配慮しています。また、基本の3種類のおやつのなかから、こどもたち自身で、食べる量を調整しながら選べるように工夫しています。学童クラブの職員は、こどもたちが楽しんでおやつの時間が過ごせるように、こどもから食べたいおやつを聞く機会を設け、食べている量を確認しながら、こどもからリクエストがあったおやつを提供し、楽しんで食べられるよう工夫しています。

学童クラブでは、食物アレルギー対応の安全対策を徹底し、おやつを提供しています

学童クラブでは、入所前に保護者からアレルギーの調査をおこない、アレルギーの原因となる食材を除去しています。また、症状が重くでるそば、ナッツ類、キウイを含むおやつは、一切提供せずアレルギー事故防止対策に努めています。アレルギー対応のこどもにおやつを提供する際は、必ず職員2人で読み合わせをし、ラップをかけほかの物が混入しないよう安全面への配慮をしています。そのほか、学童クラブ運営マニュアルのおやつ対応について職員間で周知を図り、入社時研修では、アレルギー対応に関する研修を受け、安全に対する意識を高めています。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>こどもへは手洗いの大切さに気づく働きかけをし、感染症対策にも取り組んでいます</p> <p>学童クラブでは、こどもが健康に関心を持ち、感染症の予防や防止ができるように手洗いの声かけをおこなっています。手洗い場には、正しい手の洗い方や感染症対策のためのマスクの着用方法、咳エチケットなどを掲示しています。また、菌が付いた手の写真も併せて掲示し、こどもが手洗いの大切さに気づき、感染症対策の意識が高まる工夫をしています。そのほか、感染症防止のため室内の換気を常時おこない、乾燥する冬場は加湿器を設置し、テーブル、床は毎日の消毒に努め、玩具は週1回消毒するなど衛生面を徹底しています。</p> <p>こどもの怪我や体調不良があった際は、保護者と連携を図りながら対応しています</p> <p>こどもの怪我や体調不良があった際は、最初に保護者へ連絡をし、対応方法を相談したうえで、各医療機関での受診や、保護者のお迎えを待つなど連携した対応に取り組んでいます。また、緊急性の高い怪我の際は、職員が病院に連れて行く体制を整え、受診する病院を一覧にしておくなど迅速な対応に努めています。そのほか、月に1回避難訓練を設け、日常的に安全に対する意識が高まるように取り組んでいます。学童クラブでは、現在、医療的ケアが必要なこどもの在籍はありませんが、今後対応が必要な際は、法人との検討に取り組む予定です。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>保護者の就労や状況に合わせた支援をし、保護者同士が交流を持てる機会を設けています</p> <p>学童クラブでは、保護者の就労状況に配慮しながら、電話連絡が難しい場合には、連絡帳アプリでこどもの様子やお知らせを個別に配信するなど個々の状況に合わせた支援に取り組んでいます。また、連絡帳アプリ配信を見ていない保護者へは電話連絡をするなど、保護者の状況にあわせた情報提供をおこなっています。学童クラブでは、保護者会を年に3回実施し、保護者同士が意見を交わして交流できる場を設けています。さらに、親子で参加できる遠足を企画し、保護者同士が自然と交流できる機会を提供しています。</p> <p>職員は、こどもの様子を丁寧に伝え、保護者との信頼関係の構築に取り組んでいます</p> <p>保護者会では、こどもが活動している様子を写真で紹介し、保護者とこどもの成長を喜ぶ機会を設けています。また、「放課後GO→クラブこうなんだより」では、イベントを楽しむこどもの写真を載せ、日々の活動の様子を伝えていきます。年度始めには、職員のことを知ってもらうために、おたよりに職員紹介を載せ、保護者に周知をしています。そのほか、お迎えの際は、こどもの様子を伝え、会えない保護者には、伝える内容を精査して電話もしくは連絡帳アプリにするなど状況にあった丁寧な対応を心がけ、保護者との信頼関係の構築に取り組んでいます。</p> <p>こどもの様子や発達状況の共通認識を図るため、電話や連絡帳アプリを活用しています</p> <p>学童クラブでは、こどもの様子や発達状況について保護者と共通認識を持てるように、電話や連絡帳アプリを活用して、こどもの様子や成長を感じた場面を伝え、保護者と情報共有しています。また、お迎えの際には、こどもの成長した姿や、その日の活動の様子などを直接伝え、会話を通じてこどもの成長を共に喜び共通認識を深めています。さらに、出欠席は必ず確認をおこない、連絡がなく欠席した場合には、早急に保護者へ電話をかけ確認をしています。保護者と連絡がつかない際は、自宅を訪問し、こどもの安全確認にも取り組んでいます。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>施設では地域資源や地域企業を活用し、さまざまな体験の機会を設けています</p> <p>施設では、地域資源や港区の企業と連携し、こどもたちに、さまざまな交流の機会を設けています。月1回、職業紹介として、警察署の方や港区の一般企業の方を招待し、役割や仕事内容について聞く機会を設けています。また、こどもたちに将来なりたい職業アンケートを実施し、一番なりたい職業のお菓子メーカーに来てもらい、話しを聞くなどこどもの希望に合わせ、学べる機会を提供しています。遠足は年2回実施し、港清掃工場とおもちゃ美術館に行くなど社会科見学の機会を設け、学びが得られる取り組みをしています。</p> <p>さまざまな職業の方たちと関わる機会を設け、生活の幅が広がる取り組みをしています</p> <p>施設の事業計画に、地域との連携を掲げ、施設長を中心に、地域と関わりを持つための活動に取り組んでいます。地域の交流会には、施設長が積極的に参加し、近隣の町会長や児童館等とのつながりが持てるように挨拶を交わしています。また、こどもたちに月1回の職業紹介の機会を通して、さまざまな職業の方たちと、仕事についての話しを聞き、交流を図る機会を提供しています。学童クラブでは、こどもたちに交流を通して、将来について考えるきっかけ作り、地域資源を知ることによって生活の幅が広がる取り組みをしています。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している
タイトル①	施設では、特性を持つ子どもの居場所が確保できる環境作りに力を入れています	
内容①	施設の職員は、特性を持つ子どもの対応について、専門家の適切な助言を受け、子どもの居場所が確保できる環境作りに力を入れています。また、特性を持つ子どもへの環境を整えるため、港区の障害児巡回の指導を受ける機会を設けています。運営法人とは、発達支援に特化した専門家の巡回指導を受け、子どもの様子や職員の関わりを観察し助言を得るなど協力体制を整えています。職員は、巡回での助言を活かし、子どもたちと関わっていくなかで成長を感じられる場面があることから、今後も継続した支援に取り組むことを目指しています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル②	子どもたちが、さまざまな職業を知るために地域との関わりに力を入れています	
内容②	法人の事業計画のなかに、将来子どもたちが「なりたい自分」になれる支援を掲げています。施設では、子どもたちがさまざまな職業を知り、どのような大人になりたいか選択肢を増やすことを目的に、地域との関わりに力を入れています。2024年度より月1回、近隣の地域施設の方や港区の企業の方に来ていただき、施設紹介や職業紹介の機会を設けています。子どもたちは、施設の役割や企業の仕事内容を知ること興味や関心を深め、新たな発見や学び、行動力を身につける機会となり、将来への期待感を高めています。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	2-2-2	着実な計画の実行に取り組んでいる
タイトル③	施設運営の基盤を整備し、円滑な移行と安定化を進め、さらなる発展を目指しています	
内容③	2023年度の受託事業者変更に伴い、施設運営やサービス内容の移行を円滑に進めることを重視し、子どもや保護者への丁寧な説明に努めました。同時に、施設環境や就労環境の整備を進め、職員のモチベーションの向上や事務分担の見直しを通じて運営基盤の構築に注力しました。具体的な取り組みとして、ロッカーや下駄箱、おもちゃ棚の再配置をおこない施設環境を改善しました。この基盤作りにより運営の安定化が進み、来年度以降のさらなる発展に向けた準備を整えています。今後も基盤を強化し、より良い運営体制の実現を目指していきます。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	学童クラブでは、子ども同士が学年やクラスの枠を超え自然と関係性が築ける環境を整え、相手を思いやり、認め合う心を育てています
	内容	学童クラブは小規模集団のため、子ども同士の関わりが身近な存在となり、学年やクラスの枠を超えて、自然と関係性が築ける環境が整っています。そのなかで、支援クラスの子どもが困っている場面では、子どもたち自ら気づき声をかけ、手助けをするなど相手を思いやる心が生まれています。職員は、子ども同士の関わりを見守り、互いに認め合いながら過ごせるように適切な支援をしています。学童クラブでは、子どもの特性の有無にかかわらず、共に生活し支え合う「ノーマライゼーション」の考えを生活のなかで実践しながら学ぶ環境を整えています。
2	タイトル	子どもたちがともに協力し合い、あきらめず挑戦できる心を育て、意見を取り入れながら、遊びの幅と主体性が伸びる環境を整えています
	内容	学童クラブでは、施設を利用している子どもと、学童クラブの子どもたちが同じ空間のなかで過ごし、ともに成長できる環境を整えています。年間の育成支援目標を立て、子どもたちが、ともだちと協力し合い、あきらめず挑戦できる心が育つ関わりや成長を支えています。毎月のイベントでは、子どもたちの意見を取り入れながら、遊びの幅と主体性が伸びる環境を整えています。さらに、学童クラブの子どもたちだけの時間も大切に、特別な遊びを取り入れるなど、長い時間でも楽しく快適に過ごせる工夫に取り組んでいます。
3	タイトル	職員の意見交換や発言を促す取り組みを進め、職員間の連携を深めることで、風通しの良い職場環境を構築しています
	内容	施設長は出勤時に全職員に声をかけることを意識し、業務外の会話も交えながら関係構築を図り、心理的安全性の確保に努めています。職員会議では、経営層からの業務連絡にとどまらず、職員一人ひとりの意見を丁寧に汲み取るため、話題を振ったり発言を促したりする工夫を取り入れています。さらに、非常勤職員も積極的に発言し、子どもとの日常的な関わりを共有しながら、育成に向けた提案がおこなえる環境を整備しています。職員が意見を気兼ねなく交換できる風通しの良い職場を実現し、チームの連携強化を促進する組織風土を築いています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもたちが、落ち着いて過ごせるように居心地の良い場所の確保を進め、安心して成長できる環境を目指しています
	内容	学童クラブの施設は、ワンフロアの構造であるため、子どもがクールダウンするための専用スペースの確保を図りたいと考え、さらなる改善を進めています。また、子どもにとって気持ちを落ち着ける居心地の良い場所を確保するとともに、ほかの子どもたちも安心して過ごせる環境を整え、遊びや活動に集中できるように取り組んでいます。さらに、職員全員が特性を持つ子どもへの対応方法を学び、一定のスキルを身につける取り組みをしています。職員は、子どもたちが安心して成長できる環境を目指して、日々の支援に取り組んでいます。
2	タイトル	非常勤職員やアルバイト職員との連携を進め、学童クラブの育成理念や情報を共有し、さらなる効率化と連携力の強化を目指しています
	内容	学童クラブの円滑な運営に向けて、非常勤職員やアルバイト職員との連携強化に取り組んでいます。職員ミーティングを通じて意見交換をおこない、育成理念の理解を深めるとともに、情報連携を進めています。今後は情報共有の効率化をさらに工夫していく予定です。また、施設のイベントや日常業務では、短期アルバイト職員にも育成理念を共有し、意識的に取り組める支援を強化します。全職員が主体的に業務に関わり、組織全体の連携力のさらなる向上を目指しています。
3	タイトル	研修計画をもとに研修内容の充実を図り、基礎知識の習得を促進して、職員の成長と施設全体のサービスの質の向上を進めています
	内容	職員のスキルアップを促進するため、研修計画を年度始めに立案し、前期後期に分けて実施状況を管理しながら振り返りや修正を実施しています。現場での経験をさらに活かすためには基礎知識の習得が欠かせないとの認識から、職員が知識を深められる機会を提供する取り組みを進めています。施設長を中心に、職員が研修に前向きに参加できる環境づくりを推進し、計画内容の充実にも取り組んでいます。今後は研修内容をよりスキルアップに焦点を当てたものに整備し、職員の成長を後押しすることで、施設全体のサービス向上を目指しています。